

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第701号 平成26年3月10日

イクメン希望

2月13日付の朝日新聞に、「就活男子、イクメン希望」という見出しで就職情報会社「マイナビ」が行った「大学生のライフスタイル調査」の結果が掲載されています。

この記事については、彼らが実際に就職した後もそうした意識に変化がなければ、子育て環境は大きく変化するだろうと期待を込めて読みましたが、もう少し詳しく調査結果の内容を見て置きたいと思います。

この調査は、「マイナビ」が法政大学のキャリアデザイン学部と共同で、2015年3月卒業予定の全「マイナビ」会員に対して行ったもので、

- ・コミュニケーションツールについて
- ・生活環境と経済的状况について
- ・大学生活について
- ・現在と将来のライフスタイルについて

等76項目にわたり行われています。

新聞報道された「イクメン希望」というのは、現在と将来のライフスタイルについて聞いた項目の一部を記事にしたものです。

その結果は下表の通りとなっていますが、育児休暇を取って積極的に子育てしたいという男子学生は、文系で44.1%、理系で35.9%となっており、更に、育児休暇は取らないが子育てに参加するという男子学生は文系で43.5%、理系で50.5%となっていますので、合わせると子育てに積極的な男子学生は文系で87.6%、理系で86.4%と非常に高い結果となっています。

面白いのは、女子学生で、7割前後が育児休暇を取って積極的に子育てしたいと

回 答	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子
育児休暇を取って積極的に子育てしたい	44.1	35.9	67.8	73.5
育児休暇は取らないが夫婦で子育てしたい	43.5	50.5	5.6	5.7
子ども不が出来たら仕事をやめて子育てに専念	0.8	1.1	13.6	9.4
子育てはできるだけ相手や両親に任せたい	2.6	2.2	0.2	1.0
今のところあまり子供は欲しくない	3.8	3.9	8.5	7.4
子育てのことなど考えた事もない	5.2	6.4	4.4	3.0

していますが、夫婦で子育てしたいと考えている女子学生は1割にも満たず、男子学生とは際立った反応を示して

います。これは想像するに、子育てに対して男性に殆ど期待していないという気持ちの表れかも知れませんね。

男子学生に積極的に子育てに参加しようとする理由を聞いたところ、最も多かった理由は「子どもが小さい内は出来るだけそばにいてあげたいから」というものですが、こうした意識は子どもの成長にとって大変重要だと思います。

「イクメン希望」の男子学生が多いという事に対して、内向きで軟弱な学生が増えたという様に考える方もいるかも知れません。しかし私は、そうした男子大学生達の意識はむしろ歓迎すべき事だと思っています。

「イクメン」という事に対して男子学生達がどれ程の認識を持っているのか定かではありませんが、「イクメン希望」という彼らの思いが「男女が共同参画する社会」の構成者としての意思と責任を自覚しての結果であるなら大変結構な事であり、また、是非そうであって欲しいと思っています。(塾頭：吉田 洋一)